

平成30年度 奈良県子ども読書活動推進会議議事要旨

日 時 平成30年8月8日（水）午前10時～正午

場 所 奈良県庁6階 会議室

出席者	奈良県くらし創造部次長（議長）	奥田 善之
	奈良県図書館協会公共図書館部会代表 （奈良市立中央図書館長）	奥田 喜隆
	奈良県学校図書館協議会代表 （奈良市立椿井小学校長）	大橋 美子
	奈良県学校図書館協議会 高等学校図書館研究会代表 （奈良県立平城高等学校長）	今西 一盛
	奈良県都市教育長協議会代表 （奈良市立北部図書館長）	北出 慎一
	奈良県町村教育長会代表 （下市町立図書館長）	北 智之
	民間団体ボランティア代表 （奈良子どもの本連絡会）	船津 喜美子
	学識経験者 （奈良教育大学教授）	横山 真貴子
	奈良県立図書館情報館副館長	小嶋 宏平
	奈良県教育委員会事務局学校教育課長	深田 展巧
	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課長 代理 人権・地域教育課主査	西 英樹
	奈良県くらし創造部青少年・社会活動推進課長 代理 青少年・社会活動推進課長補佐	佐々岡 正

○会議の公開について

- ・本会議は、「奈良県子ども読書活動推進会議公開の取扱い」及び「傍聴要領」を規定している。この「取扱い」により、会議は原則公開とし、開催に際しては傍聴席を設け、終了後は奈良県ホームページにて議事録を掲載する。

○議長挨拶

○委員紹介

○議事要旨

(1) 平成29年度事業報告

①子ども読書活動推進会議について

平成29年度は、8月2日に当会議を開催した。皆様方より多くのご意見をいただいた。

②「子どもの読書活動推進」啓発ポスター募集事業について

平成24年度から「子どもの読書活動推進」啓発ポスター募集事業を開始した。昨年の参加作品は小・中・高あわせて257作品、審査会でそのうち20作品を優秀作品として選考し、県内施設での展示、啓発等に活用した。

③子ども読書活動推進講座について

この講座は、図書館関係者・読み聞かせボランティア・教職員等を対象に、講義と実践の形で行っている。昨年度は県教育委員会事務局人権・地域教育課主催で3回開講し、計72名の参加があった。

④子ども読書活動推進会議専門部会について

平成29年11月21日、子ども読書活動推進会議の専門部会を開催した。専門部会では、子ども読書活動優秀実践学校・図書館ならびに団体に対する文部科学大臣表彰の推薦に関して協議し、奈良県からは「香芝市立真美ヶ丘東小学校」「生駒市立上中学校」「奈良県立郡山高等学校」「宇陀市立中央図書館」と王寺町の「おはなし読み聞かせ隊」を文部科学省へ推薦した。今年4月には文部科学大臣の表彰が決定し、東京都で表彰式が開催された。

⑤子ども読書活動推進フォーラムについて

平成29年3月8日、王寺町やわらぎ会館4階多目的ホールにおいて「子どもの読書活動推進への取組 ～地域・学校・図書館の連携を目指して～」と題して、平成29年度子ども読書活動推進フォーラムを実施した。

(2) 平成30年度事業計画

①「子ども読書活動推進」啓発ポスター事業について

啓発ポスター募集事業を今年度も実施する。現在、県内各学校に募集要項や添付のチラシを配布し、作品を募っている。

ポスター審査会は10月中旬に予定している。昨年同様、奈良県学校図書館協議会代表、奈良県学校図書館協議会高等学校図書館研究会代表、学識経験者、奈良県教育委員会事務局学校教育課指導主事及び当課課長で審査を行う予定である。優秀作品の展示は、県立図書情報館をはじめ県庁屋上ギャラリーや県立教育研究所等県の各施設ならびに市町村立図書館等において展示する予定である。ご協力いただく委員の方には、お世話をおかけするが、よろしくお願ひしたい。

なお、昨年度のポスター優秀20作品の縮小版を7月28日・29日に実施された「絵本ギャラリーin奈良」で展示した。

②子ども読書活動推進会議専門部会について

子ども読書活動推進会議専門部会の開催は、文部科学省からの通知に基づき開催している。来年度の文部科学大臣表彰推薦について協議していただく予定である。学校、図書館、団体の3部門の選考をお願いする。

③子ども読書活動推進フォーラムについて

子ども読書活動推進フォーラムについては、1月下旬頃の開催を予定している。

④子ども読書活動推進講座について

県教育委員会事務局人権・地域教育課社会教育係が主催で実施している子ども読書活動推進講座については、本年度も引き続き、教職員や読み聞かせボランティア等を対象に、講義・実践のかたちで行う予定である。

(3)「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」について

- 国では、概ね5年ごとに計画を改正しているが、第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が、本年4月20日に閣議決定された。
- 平成25年からの第三次基本計画期間では、児童用図書の貸出冊数の増加や全校一斉読書活動を行う学校の割合が増加したが、1ヶ月に一冊も本を読まない不読率が特に高校生の段階で高いという現状があり、これは、各世代における課題が影響していると分析されている。
- 国では、これら現状と課題を踏まえ、「発達段階ごとの効果的な取組を行うこと」「読書への関心を高める取組を充実させること」「スマートフォンやコミュニケーションツールの普及・多様化など、情報環境の変化が与える影響に関する実態把握・分析を行うこと」をポイントに、今回の計画改正を行った。
- また、子供の読書環境を促進するための取組として、市町村における推進計画の策定や見直し、このことに係る都道府県からの助言など推進体制の充実についても、触れられている。
- 平成29年度奈良県内市町村別子ども読書活動推進計画策定状況において未策定の市町村については、公立図書館が設置されていないなどの理由もあるようだ。
- 県として、推進計画の策定や活用が図られるよう、国などからの情報の提供や策定に係るマニュアルの提供などの支援をさせていただくが、市町村における推進計画の策定や活用が図られるよう、それぞれのお立場でのご協力をお願いしたい。

(4) 子どもの読書活動を推進するための取組の報告と情報交換

県くらし創造部の取り組みについて

○奈良県くらし創造部青少年・社会活動推進課長代理 佐々岡正課長補佐

- ・奈良県子ども読書活動推進フォーラムでは、子どもの読書活動に携わっている学校・図書館・ボランティア団体を中心に実践発表を行い、グループワークで情報交換を行っている。地域・学校・図書館の連携を深め、子ども読書活動推進のために活動されている方が、実践に役立つ情報を得られる効果がある。アンケート結果では、「はじめての参加だったが各ボランティアグループや学校が本と子どものつながりに力をいれていることを知り、良かったです。」「地域・学校・図書館が年間計画を立てて、意識

的に連携していくことが大切だと改めて感じました。」「現在実践されている現場の生の声が聞けてとても有意義でした。学校司書の役割が子どもたちの成長にはとても大切で目に見えての成果(貸出冊数が大幅に伸びている)がよくわかりました。ボランティアさんの活動には頭が下がります。継続できる支援体制も必要だと思います。」などの感想・意見があり、子ども読書活動推進に向けて、有意義なフォーラムになっているのではないかと思う。

- ・先ほど事務局から説明があったが、国では読書習慣を形成することや読書への関心を高めることをポイントに、第四次「子供の読書活動の推進に関する基本計画」を、本年4月に策定した。県としても今後、国や他の自治体の施策等を参考にしながら、関係機関との連携・協力を図り、子どもの読書活動推進を進めていきたいと考えているのでよろしくお願ひしたい。

県教育委員会の取り組みについて

○奈良県教育委員会事務局学校教育課長 深田展巧委員

- ・奈良県内の子どもたちの読書に関わる状況を紹介する。まず、平成29年度全国学力・学習状況調査 質問紙調査の中から3点紹介する。1つ目は「読書は好きですか。」に対して、小学生71.1%(全国74.3%)、中学生63.5%(全国69.9%)が肯定的な回答である。昨年度と比較すると、小学生は1ポイントの減少、中学生はほぼ同じだが、全国平均を下回る状況は、昨年度と同様である。2つ目は「1日当たりどれくらいの時間読書をしますか。」に対して、「全く読まない」が小学生24.3%(全国20.5%)、中学生42.4%(全国35.6%)である。3つ目は「公共図書館や学校図書館にどれくらい行きますか。」に対して、「ほとんど又は全く行かない。」が小学生37.9%(全国32.4%)、中学生67.9%(全国58.0%)である。中学校では昨年度と比較してやや改善傾向にあるが、依然小・中学校とも、全国平均に比べて読書をしない、図書館に行かない傾向が強いように思う。
- ・学校図書館の状況について、国が隔年で実施している「平成28年度学校図書館の現状に関する調査」の結果から2つ紹介する。本調査については本年度実施される予定であり、現時点では平成28年度の調査結果が最新の情報となる。まず、全校一斉読書を実施している学校の割合である。小学校95.0%(全国97.1%)、中学校67.3%(全国88.5%)、高等学校77.1%(42.9%)である。中学校での実施率が全国平均を20ポイント以上下回る状況に対して、高等学校では全国平均を20ポイント以上上回っている。次に、司書教諭の配置について、学校図書館法では、12学級以上の学校には必ず置かなければならないとなっており、県内の各学校(小・中・高、特別支援学校)全てに配置している。しかし、学校司書の配置は、小学校18.4%(全国59.3%)、中学校18.3%(全国57.3%)、高等学校85.7%(全国66.9%)であり、小・中学校で配置率が低く、学校図書館の運営・向上を図り、児童生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するためにも学校司書の必要性を感じる。
- ・以上の結果を受け、本年度、学校教育課では、特に最後に報告した学校司書の配置について、各市町村教育委員会に学校司書の配置を促すための取組を進めていく。具体

的には、県内の学校において学校司書が効果的に取り組んでおられる学校の取組を取りまとめ、「学校司書実践事例集」の作成を考えている。この事例集を各市町村教育委員会や学校にお示しし、学校司書の配置の拡大につなげたいと考えている。また、昨年度と同様に、平成29年度からの学校図書館図書整備等5か年計画の策定に伴う地方財政措置についても、機会がある度に各市町村教育委員会に確認し、学校図書館の図書整備、新聞配備及び学校司書の配置に役立てるよう呼びかけていく。今後とも、子どもたちの読書の大切さと学校図書館の利活用について市町村教育委員会及び校長に積極的に働きかけ、読書活動の推進・啓発に努めていきたい。

県教育委員会の取り組みについて

○奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課長代理 西英樹主査

- ・人権・地域教育課の取組について、当課では、学校や地域で読み聞かせボランティア活動をしている方や教職員などを対象に、昨年度は、「読み聞かせ講座」や「ブックトーク講座」を開催した。
- ・講座を通して、「読み聞かせ」や「ブックトーク」の意義や実践方法について理解を深めていただき、子どもに本の魅力を伝えるための方法を学ぶ研修を行うことで、学校や地域で読み聞かせボランティア活動をする方の資質の向上を図るとともに、人材育成、ひいては地域教育力の向上を目指している。どの講座も非常に人気が高いが、演習等があるので、研修の手法として募集枠を40名から45名にしており、実践につながる演習を通して受講者のみなさんには、毎回大変満足いただいている。
- ・今年度については、昨年度に引き続き、「ブックトーク講座」を開催する予定である。只今日程調整中で、開催場所を県立図書情報館で11月ぐらいに実施する予定である。また、内容も昨年度に引き続き、「中級者向け」の講座を2回連続講座として開催する予定である。
- ・研修講座に受講された方が研修だけに終わらず、学校や地域で実際に周りに広げられるような研修を実施していきたいと考えている。

県立図書情報館の取り組みについて

○奈良県立図書情報館副館長 小嶋宏平委員

- ・YAコーナーについて
YAコーナーは、ヤングアダルトの略称で、ティーン世代を対象とした図書コーナーを館内3階に設けている。毎年、夏のこの時期には「夏のとも～どんとこい！読書感想文」として課題図書やその季節や時勢に合ったテーマを選び、関係の本を開架スペースに並べている。このほか、年に数回テーマを決めて図書展示を行っている。図書情報館は、市町村立の公共図書館とは違って、小学生や幼少期の子どもが手にするような書籍は開架スペースにあまり置いていない。
- ・こども図書室について
毎月1回、第2土曜日の午後「こども図書室」を開室している。子どもさんとその保護者がいっしょに来館され、午後1時30分から3時30分、ボランティアによる読み聞かせを行い、読書に親しんでいただく。子どもさんと保護者合わせて毎回30名か

ら50名の利用があり、年齢層は乳幼児から小学校高学年と幅広い。

・図書館未設置地域への読書支援事業について

“こども「読書力向上」事業”として、図書館未設置地域(地域の公民館も含めて)への絵本・読み物のセット貸出を実施している。地域の公民館や教育委員会を窓口として、主に小・中学校へ直接資料を搬送している。年間トータルでは、13～15施設、80セット程度の利用申し込みがある。また、2016年には、山添村、三宅町、御杖村に当館司書が出向き、セット貸出の紹介も含めたブックトークやお話し会の出前も行った。ただ、図書館未設置地域への支援を進めるにあたり、資料搬送費の捻出が当館において課題となっている。

図書館での読書活動推進について

○奈良県図書館協議会公共図書館部会代表

奈良市立中央図書館長 奥田喜隆委員

- ・奈良市には、中央・西部・北部と図書館が3館あり、3館とも児童コーナー(児童室)に、いろいろな本の紹介も含めて本を見つけるきっかけ作りとして、子ども版広報誌を発行し置いている。また、3館ともヤング・アダルトコーナーがあり、読書の広がり、読書へのきっかけ作りとしてヤング・アダルト版広報誌も置いている。図書館司書が工夫しながら作成している。
- ・中央図書館では、「ストーリーテリング講座」を基礎・フォローアップの2つ開催している。おはなしを覚えて、おはなしの楽しさ・難しさを知り、子どもたちにおはなしのできる人を育成している。この講座を受けたあと、自分たちで研鑽し、学校へのボランティアとして活躍しているグループもある。
- ・3館とも、定期的におはなしの会を開催し、それぞれの特色を活かした子どもたちと本を結びつける取組を行っている。子どもたちがはじめてお母さんを通じて本を手にする「ファーストブック講座」、夏休みに3館合同で奈良市児童文化研究会の出演協力を得て「夏休み子どもおとぎばなし大会」を開催し、親子連れに参加してもらっている。
- ・学校図書館への支援として、各学校への本の団体貸し出し・各学校への学校図書館の環境改善や運営への相談・学校に係わっているボランティアの方の図書修理などを行っている。また、定期的に文庫さんや保育園への貸出文庫という形での本の貸し出しを行っている。

学校での読書活動推進について

○奈良県学校図書館協議会代表

奈良市立椿井小学校長 大橋美子委員

- ・それぞれの学校で学校教育目標を立て、それののっとして学校図書館をどのように運営し子どもたちが読書に親しむのかというような計画を立てている。本校で昨年度実施したアンケート結果では、「図書室や学級文庫の本をよく利用している。」に対して肯定的な答えは、低学年で86.8%、高学年で74.5%であり、随分高い数字になっている。本校では、図書室が近くにあり学級文庫やいろいろなスペースに本をおいており、子どもたちにとって本が身近な所にある。また、朝読書も実施しており、読

書好きの子どもは多いと思う。

- それぞれの学校で、読書好きの子どもを育て増やすために様々な取組を行っている。図書委員会や図書ボランティアの方を通じて読み聞かせ、紙芝居、本の紹介をしたりしている。それだけでなく、学習情報センターとしての働きも学校図書館には大きくある。これから、この面でより充実させないといけない。学習指導要領の移行期に入り、学校図書館を活かしてその図書資料を活かして子どもたちが自分たちで課題を見つけ調べてその結果を発表していく。そのような取組が一層望まれる。このためには、資料の充実、予算の問題、学校司書の配置が課題である。特に、学校司書の配置は奈良県は配置率が低い、人がいる図書館はとても大きいことである。この点が少しでも進んでいけば学習情報センターとしての役割は、随分強いものになる。また、第2の保健室ということばがあるが、学級やいろいろな所でなかなかない子どもが学校図書館に来てほっとする、そのような居場所になってきている。そういう点から考えても人がいることは大事である。今後、教育活動全体の中で学校図書館の役割はますます大きくなるが、それに伴う予算化、人の問題、そして根本的な問題として学校の教員としての意識の向上、改革が大切である。
- 学校図書館協議会研究会では、低学年・中学年・高学年ごとにおすすめの本のリストを作成している。今後も、これらを紹介して読書を楽しむ子どもたちを育てていきたい。

学校での読書活動推進について

○奈良県学校図書館協議会 高等学校図書館研究会代表

奈良県立平城高等学校長 今西一盛委員

- 昨年度から参加させていただいている図書館関係の会合では、高校生の読書離れ・不読率がいつも話題になり、頭を痛めている。各学校現場では、あの手この手を繰り返して高校生の読書意欲を高めたり、読書活動を推進しようと苦労を重ねている。
- 奈良県高等学校図書館研究会は、図書館情報研究委員会と読書推進研究委員会の2つがあり、情報共有したり実践交流したりしている。図書館情報研究委員会では、県内の各学校図書館に利用状況と問題点についてアンケート調査を実施した。利用者数について、学校規模が違うので一概には言えないが盛況とはいえない状況が見て取れる。課題として、図書館の位置が利用状況に関係することや図書の購入について経費の関係で苦労していることがわかる。また、今年度からの「すべての教室に新聞を」運動について、13%が実施している。読書推進研究委員会では、各学校の取組を調査した。各学校それぞれが、朝の一斉読書・オススメ本の紹介・手作りのしおりやPOPの作成・ビブリオバトルやお気に入りの一行を発表するイベントの実施など工夫した取組を進めている。学校司書部会では、昨年度グラフィックデザイナーを講師に招いてチラシ作りのコツを学ぶワークショップ研究会を開いた。
- 今年度4月に出された国の第四次計画では、高校生の不読率に言及しながら友人など同世代からの影響を大きく受けることから、子ども同士で本を紹介しあう取組の充実が有効であるとされている。今後も、高等学校図書館研究会として有効な情報を共有しながら実践と研究を積み重ねていきたい。

図書館での読書活動推進について

○奈良県都市教育長協議会代表

奈良市立北部図書館長 北出慎一委員

- ・奈良市立北部図書館では、ボランティアと協働で年齢に応じたおはなし会や各種事業を開催している。

乳幼児 → 福祉センター内2Fの子育てスポットでブックスタート事業、
おひざにだっこ えほんとわらべうたのおはなしかい

幼児 → おはなしかい、ちいさなおはなしとえほんの会

小学生 → 小学校にブックリスト配布・司書派遣

中学生 → 中学校にブックリスト配布・司書派遣・職場体験

- ・図書館内で話し合い、幼い時からおはなしやわらべうたを聞くことにより本に興味を持つ、それが子ども読書活動推進につながるという結論になった。そこで、今年度からおはなしかいの内容を組み替えわらべうたに力を入れることにした。

わらべうたの持つ力は、

- 1 精神的な発達
 - (1) 赤ちゃんと周りの大人との信頼関係を築く
 - ・向かいあって目と目を合わせる、体に触れる
 - (2) 社会性を育てる
 - ・恥ずかしいこと、してはいけないことを知る(=はやしうた)
 - (3) 感情を育てる
 - ・喜怒哀楽(感情を耕す)
 - 2 身体的な発達
 - ・口腔内の筋肉の発達
 - ・骨や筋肉の発達
 - 3 文学のとびら
 - ・わらべうたの歌詞は詩的な美しさや想像の豊かさ、口のにせれば楽しいユーモア性など文学的な楽しみの要素があり、まだ文字の読めない絵を見られない幼い子にとって文学のとびらとして大きな役割を持つ。
- ・小さい時から本やうたに触れ合い、この形をずっと継続していけば、高校生の不読率解消につながると思う。

図書館での読書活動推進について

○奈良県町村教育長会代表

下市町立図書館長 北智之委員

- ・下市町立図書館は、小規模ではあるが歴史は古く昭和7年に現在の町立下市小学校の前で設立し、平成2年から観光文化センター2Fで町立図書館として業務を行っている。蔵書冊数は約34,000冊で、図書利用者については町内・外に関係なくどなたでも登録できる制度となっている。職員については、司書1名と社会教育の職員が兼務している。
- ・毎年1回、子どもから大人対象に「図書館まつり」をボランティアの協力を得て開催している。今年度は、7月1日(日)に開催し、パネルシアター・読み聞かせ・工作・クイズなど楽しい催しだった。

毎月第4土曜日には、館内のおはなしの部屋でボランティアの皆様で読み聞かせを開催している。

毎年11月には、古本交換セミナーを開催している。いらなくなった本を持ち寄り展示し必要な本を持ち帰る。

昨年度新企画として、成人式に合わせて「あの人のおすすめ本」を開催した。町長、副町長、教育長、町議会議員、幼・小・中学校の校長に紹介していただいた若者に読んでもらいたい本を図書館に展示し貸出を行った。

- ・ 今後は、他の図書館やボランティアの皆様と連携し、できることを最大限努力し、住民のニーズに応えられるような図書館として取り組んでいきたい。

ボランティアとして思うこと

○民間団体ボランティア代表

奈良子どもの本連絡会 船津喜美子委員

- ・ 奈良子どもの本連絡会では、「なこれんつうしん」を2ヶ月に1回発行している。いろいろな本に関するどのような会がどこで行われているかなどの紹介も含めて作成しており、これを参考にして活用しとても楽しみにしている人がたくさんいる。おりがみ講習会や読み聞かせの勉強会なども行っている。
- ・ 今いつも話題になるのは、学校には学校司書を絶対にどの学校にも常に配置してほしいということである。奈良県では、市によって状況が違うが学校司書の配置率が非常に低い。学校司書がいる・いないでは、子どもたちの本への関わり方が違うと思う。以前、文部科学省のモデル校として、右京小学校に3年間学校司書がおかれたことがあった。その時、図書館の様子がすっかり変わった。子どもたちの対応が随分変わったと身近に感じた。学校司書の全校配置を強く望んでいる。
- ・ 昔、奈良市立中央図書館のおはなしの勉強会に初級者コース1年間、経験者コース約5年間参加し、とても時間をかけて教えてもらった。そして、本に係わるボランティア活動に携わっている。現在は、このような勉強会の期間が短くなっている。おはなしの勉強会をなくさないで、昔のようなたくさんの方が参加できるようなシステムにしてほしい。
- ・ 右京おはなしの会の代表をしており、奈良市立北部図書館にいつもお世話になっている。そこでは、奈良の民話を語りつぐ会「ナーミン」とおはなしの会の共催での活動も行っている。

読書活動推進について思うこと

○学識経験者

奈良教育大学教授 横山真貴子委員

- ・ 幼児教育専門で、言葉の領域を担当しており、主に絵本の研究をしている。本に関わる活動としては、絵本の講座や研修会、講演等を実施している。対象は、保育園や幼稚園、学校の先生のほか、読み聞かせのボランティアの方、子育て中の保護者などである。子どもに本を手渡していく際のアプローチとして、本を手渡す大人に、本の楽しさを伝えたいと思っている。そのため研修等には、できるだけ絵本を持参し、読み

手となる大人に、絵本を手に取り、読んでもらう時間をとっている。お母さん方や先生方自身が、絵本がおもしろいと思わないと、なかなか子どもたちに絵本は手渡されない。

- ・実施している保護者向けの講演は、“子育てに絵本があるともっと楽しい”という想いで展開している。保護者には「子どもに絵本を読みましょう」ではなく、「絵本は楽しい」という気持ちになってもらいたい。
- ・絵本を届ける活動として、学生さんたちと絵本をもって保育施設や学校に出向き、絵本を面展示して、子どもたちと絵本を読み合う時間と空間を提供する「えほんのひろば」を行っている。子どもたちが好きな絵本を選んで、好きな人(学生)と絵本を読む。1人で読んでもよい。子どもが自分のペースで絵本と出会う経験を大切にしたい。

【情報交換より】

○学校司書の配置について

- ・市町村によって、配置に温度差がある。
- ・市町村は予算の面で非常勤になる場合がある。
- ・高等学校の配置率は高いが、学校図書館の規模や専門性も関連している。
- ・実践事例集を活用し、市町村教育委員会への働きかけをお願いしたい。

○小・中・高校生の不読率の解消に向けて

- ・学校司書のことは、当然関係がある。
- ・核家族化になった世の中の現状なども要因の一つかもしれない。
- ・学校でボランティアなどによる読み聞かせなどの取組の後、教職員がどのようにつなげていくかが大事である。
- ・学校図書館の一層の充実が必要である。
- ・幼稚園など小さい時に本を読む習慣を身に付けさせることが大切である。
- ・子どもが本を読めるようになった後も、親自身がいっしょに本を楽しむという姿勢が望まれる。
- ・日常生活の中に読書を溶け込ますことが大事である。
- ・高校生は部活動など何かと忙しい現状がある。これからは、読書が何かとコラボしないといけない。
- ・図書館として、高校生に来館してもらうために自習スペースを設けることや高校生のサークル活動と協働することなどのアイデアがある。

【奥田議長】

- ・委員の皆様におかれましては、本日いただいた貴重なご意見や情報を参考にさせていただき、県や各市町村における、それぞれのお立場で子どもの読書活動の推進や読書活動の充実にお取り組みいただきますようお願いいたします。また、本県の子どもの読書率がよくなりますように、今後とも協力・連携いただきますようお願いいたします。長時間にわたり積極的にご議論いただきお疲れ様でした。以上で平成30年度奈良県子ども読書活動推進会議を終了いたします。

ありがとうございました。